

Q35

抗がん剤治療の後、 子供はできますか？(女性)

抗がん剤治療では、腫瘍細胞だけではなく、新陳代謝が活発な正常細胞にも障害を与えるため、様々な副作用が生じます。残念ながら、卵巣に存在する「卵細胞」も新陳代謝が活発な組織の1つであり、抗がん剤治療で何らかの障害はほぼ必発します。

1) 抗がん剤の性腺機能障害

投与される抗がん剤の種類、投与量の増加、そして治療時の年齢が重要となります。治療時の年齢ですが、30歳以上の方は、それ以下の方に比べて抗がん剤による性腺機能障害を受けやすいとされています。

2) 治療にあたって注意すべき事

がんの治療が大前提となりますが、治療後に妊娠を希望される方が注意すべき事を以下にあげます。状況が許せば、卵巣機能に影響を与えにくい薬剤の選択や総投与量の減量が可能となる場合もありますので、主治医とよく相談されて下さい。

- (1) 治療に使用される薬剤が卵巣機能への影響を与えるかを主治医に確認してください。
- (2) 月経周期を記録する。可能であれば基礎体温をつけましょう。
- (3) 産婦人科で子宮や卵巣の機能の評価を希望する。その場合、血液検査で女性ホルモン値を測定したり、超音波で卵巣や子宮の状態を観察します。
- (4) 抗がん剤治療後の妊娠は、体力的に大きな負担となり母児共に生命の危険を伴う場合もあります。また、妊娠した場合は、画像診断等の検査が制限されたり、血液検査や腫瘍マーカーに異常値がみられたりしますので、妊娠を希望される場合は、必ず主治医に相談されて下さい。
- (5) 妊娠可能となっても、なかなか妊娠が成立しない場合や、無月経や月経周期が不整となった場合には、産婦人科を受診して下さい。

3) 卵巣機能に障害を与える抗がん剤・分子標的薬

はっきりと卵巣機能への影響が判明している抗がん剤を以下に示しますが、それらの薬剤は少数で、むしろ大半は、データが存在していないのが実情です。

(1) 卵巣機能障害が高度な薬剤

シクロフォスファミド(商品名エンドキサン)、メルファラン(商品名アルケラン)、イフォスファミド(商品名イホマイド)、ブスルファン(商品名マブリン)、プロカルバジン(商品名ナツラン)、ダカルバジン(商品名ダカルバジン)

(2) 卵巣機能障害が中等度な薬剤

シスプラチン（商品名ランダ、ブリプラチン）、カルボプラチン（商品名カルボメルク、パラプラチン）、ドキソルビシン（商品名アドリアシン）、エトポシド（商品名ベプシド、ラステット）

(3) 軽度または発生しない

アクチノマイシンD（商品名コスメゲン）、ピンクリスチン（商品名オンコビン）、メトトレキサート（商品名メソトレキセート）、フルオロウラシル（商品名5-FU）、ブレオマイシン（商品名ブレオ）

(4) 薬剤投与量との関係

シクロフォスファミド（商品名エンドキサン）やシスプラチン（商品名ランダ、ブリプラチン）に関しては、投与量の増加により卵巣機能障害が生じやすくなります。

(5) 分子標的薬

婦人科がんで使用ができる分子標的薬であるベバシズマブ（商品名アバスタ）では、卵巣機能障害が出現することが報告されています。

4) 治療後の出産

治療後の出産を希望する方の卵子、胚（受精卵）、精子の凍結保存は、日本でも行われています。

治療後に妊娠・出産を考える人が多い乳がんに関しては、厚生労働省の研究班が「乳がん治療にあたり 将来の出産をご希望の患者さんへ」と題した小冊子を作成しています。乳がんの治療による卵巣機能の低下、妊娠が乳がんを与える影響、生殖医療の専門家を選ぶポイントなどがまとめられており、乳がんの患者を受け入れる全国の

生殖医療機関のリストも掲載しています。この小冊子は日本がん・生殖医療学会のホームページ (http://www.j-sfp.org/public_patient/map_breastcancer.html) からダウンロードできます。

（齋藤文誉）

